

## 2. 先天性患者への生活援助 (難聴を伴う)

国立療養所東埼玉病院

板橋光江 林久美子  
黒岩正子 小池良子  
千葉たみ子

### 〔はじめに〕

言葉を話せなく、食事や排泄も自立していない児が集団生活で、一日も早く基本的な日常生活だけでも、ポイントィングなどを統一する事で、誰でも援助出来るように看護計画を立てその成果が現われてきたので報告します。

### 〔患者紹介〕

氏名 伊○典○ ♀ 生年月日 S44年8月14日 年令 8才 家族歴 両親、親族に筋ジス患者なし、同胞は、本人と弟も先天性筋ジストロフィー症と診断され加療中である。既産歴、妊娠、父25才母31才、妊娠中軽い腎炎にかかる。分娩 初産で鉗子分娩、生下時、体重3600g、身長51cm、仮死状態でO<sub>2</sub> 吸入受ける、ミルクの飲みが悪い、離乳開始3カ月、首のすわり1才6カ月頃、おすわり2才、這い這い3才頃、処女歩行なし、現病歴 生後9カ月で首のすわりが悪いため、北浦和中央病院、慶応病院と通い、東邦医大大橋病院で筋生検の結果、筋ジスと診断される。2才3カ月当院受診1福山型の先天性筋ジスと診断され通院す、5才8カ月S50年4月7日当院入院となる。

看護目標 ① 食事の自立 ② 排泄の自立 ③ 言語障害に対する援助

### 〔経過〕

入院当初は、ただアアアといつも不機嫌に泣き叫ぶだけだったが、成長するに従い、学校やグループ別指導を続けた結果、集団生活にも馴れて来た為、1対1の看護から、どの人にも援助出来る様にという事を目的に

○ポイントィングによる相互の伝達

○音感教育による精神面の充実

を重点に接する事にした。

#### ① 食事の自立

ようやくスプーンが持てる状態で、入院して来たTちゃんも、小学校2年になった今年の四月より箸に切替えてみた。最初は口に運ぶまでに米飯がこぼれ、思う様に食べられない為に皿を投げたり、大声で泣き叫んだが、児童指導員、保母さんの指導で指先を使う玩具を与えた結果、

左手で食べられる様になった。

### ② 排泄の自立

入院当初は、おむつのみであったが、現在では、Nsのそばに行き陰部の方を指で示し、坐って出来るようになった。排便時は、お腹をおさえるか、向こうに行けとバイバイする。排泄が終ると自分の頭をなげる。

### ③ 言語障害に対する援助の対策として、

イ 接触を多くし、反応がなくても話しかける。

ロ 反復して行動する。

ハ 音感教育を取り入れる。

遊び用具として、お話し電話、動く動物、タンバリン、ドラム、トンカチ等を取り入れた、又創造する力を養うために、砂いじりや、粘土で遊ばせる事を多くした。

毎日の積み重ねにより、赤ちゃんからようやく2才位の生活が出来るようになってきたTちゃんも、Nsの手伝い、映画、運動会等行動範囲が広がり、喜怒哀楽の表情に豊になり、最初は病棟内の看護力の50%はTちゃんに向けられていたが、現在では、30%位になり、徐々にではあるが、食事や排泄についやす時間も遊びの方についやす時間が長くなりつつあります。

これからも、ポインティングのレパトリーを広げていき、誰にでも養育出来るよう統一したものを作って行きたいと思っています。

写真1



写真2



写真3



↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

葉を話せなく、食事や排泄も自立してない児が集団生活で、一日も早く基本的な日常生活だけでも、ポインティングなどを統一する事で、誰でも援助出来るように看護計画を立てその成果が現われてきたので報告します。